

天 界

(第 22 卷)

第 2 4 7 號

昭和17年 (第1號)

1942年の天文年鑑

索 引

天象概観.....	1	木 星.....	16-17
曆		四大衛星の軌.....	27
編曆週期.....	1	土 星.....	18-19
現行各種曆年の始日 } 祝祭記念日, 24節, 雑節 }	2	天王星.....	20-21
太 陽		海王星.....	22-23
日出日没表(大阪).....	3	冥王星.....	24
運行表.....	4	彗 星.....	24-25
黒點の近況, 太陽面の経緯度... 5		流 星.....	26
カリントン太陽自轉期表.....	20	大遊星の運行圖.....	表紙 2
月		掩蔽(珍しきもの).....	9
月相, 舊曆朔日, ブラウン月相.....	3	北極星 カンオペヤの星, 大熊の星 }.....	40
月出月没(大阪).....	6-8	天文カレンダー(1月-12月)...	28-39
月の遠近.....	22	注 意(凡例).....	40
日蝕と月蝕.....	9		
水 星.....	10-11		
金 星.....	12-13		
火 星.....	14-15		

昭和
18
11
15
113

-04
テ
13

日上天文臺 東 亞 天 文 協 會 事務局: 滋賀縣 堅 田

大遊星の運行について

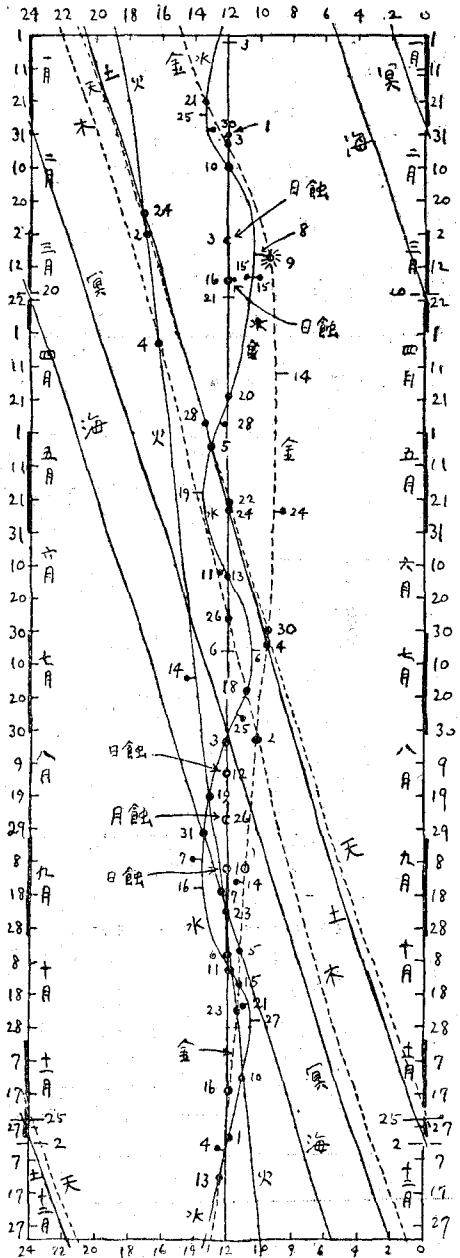
1942年の初期は、毎夜、宵の空に水金火土木の五大遊星が全部出揃ひ、それに、天王星も土星の近傍に見えてゐるし、尙ほ海王星も、冥王星も、夜が更ければ見える都合になつてゐるから、寒い頃ではあるが、遊星を楽しむには實に好機である。

2月からは金星と水星とが明けの星となり、暫くは、木星と土星とが美しい冬の諸星座を益々賑やかなものとするのみである。金星はそれから夏の終りまで、繼續して明けの空に君臨する。しかし秋になると、太陽に近づいて、視界から去る。此の年中、金星の運行は、始めから終りまで、黄道光の観測を妨害しないやうになつてゐるので、都合が良い。

過去數年來、木星と土星とは互ひに隣り同志に輝やいてゐるが、此の1942年は、兩星が牛座や双子座あたりの、比較的高い緯度に現はれるから、地球上、北半球に住む観測者は最も便利よく研究を實行することが出来る都合にある。

今(1942)年中、土星と天王星とが同じ牛座の、ヒヤデス星群とプレヤデス星群との間を往來する。しかし天王星の方が土星よりも、2°以上も緯度が高いので、この二つの星が相互に接觸したり、重なつたりすることは無い。



注意：此の圖は各遊星の南中する時刻を示すために、各月各日についてカーブを畫いたものである。慣れれば重要なものであることが知つて貰へると思ふ



東亞天文協會規則

(1941年5月改正)

- 第 1 條 此ノ會ヲ東亞天文協會ト言フ、但シ當分ノ間ハ舊名天文同好會ノ名ヲ使用スルモ妨ゲハ無イ。
- 第 2 條 此ノ會ハ天文學ノ研究發達及ビ其ノ了解ヲ進メ、兼ネテ會員相互ノ親睦ヲ増スノガ目的デアアル。
- 第 3 條 此ノ會ノ本部ハ田上天文臺ニ置ク。又會員密集ノ地ニハ支部ヲ置キ別ニ定メテアル支部規約ニ準據スル。
- 第 4 條 此ノ會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ。
 1. 例會(毎月1回)、總會(年1回)。
 2. 講演、講習(各地ヲ隨時ニ開ク)。
 3. 雜誌圖書ノ出版(雜誌ハ毎月1回發行、會員ニ無料配布、圖書ハ隨時)。
 4. 研究見學及ビ觀測指導。
 5. 天文臺、博物館等ノ經營(會員ニハ特權ガアル)。
- 第 5 條 此ノ會ハ其ノ事業ヲ遂行スル爲メ次ノ各部ヲ置キ、各部ノ業務ハ會長ノ囑託シタル部長、副部長、主事ガ當タル。
庶務部、教育部、報導部、出版部、觀測部、事業部、經理部
- 第 6 條 此ノ會ノ趣旨目的ニ賛成スルモノハ誰アモ入會ガテキル。(入會申込ノ際ハ住所職業出生年ヲ申述ベラレタイ)。會費ハ1ケ年ニツキ4圓トスル。但シ中途入會ノ場合ハ月40錢ノ割合ニテ年末マテ前納スルコト。又、退會ノ場合ハ其ノ旨ヲ申シ出ルコト。
- 第 7 條 此ノ會ノ經營ヲ支持スル趣意ヲ毎年20圓以上ヲ齎出スル者ヲ維持會員トスル。
- 第 8 條 此ノ會ニ一時金 200 圓以上ヲ寄附スル者ヲ終身會員トシ、爾後ノ會費拂込ミヲ要シナイ。
- 第 9 條 此ノ會ノ總會ニ於テ特ニ推薦セラレタル者ヲ名譽會員トスル。
- 第 10 條 此ノ會員ノ事業ヲ妨ゲ、體面ヲ汚ス會員ハ除名スル。
- 第 11 條 此ノ會ニハ顧問若干名ヲ置クコトガアル。
- 第 12 條 此ノ會ノ役員ハ次ノ通りトシ任期ハ2ケ年トスル。
會長 1名 } (會長ト副會長トハ理事會ノ推薦ニヨリ總會ニ於イテ推
副會長 2名 } 戴スル)。
理事 若干名 (總會ニ於イテ會長ガ指名スル)。
- 第 13 條 此ノ會ニハ會長ノ囑託シタル評議員若干名ヲ置キ、會長ノ相談役トナリ、其ノ任期ハ2ケ年トスル。
- 第 14 條 此ノ會ニハ會長ノ囑託シタル地方委員若干名ヲ置キ、地方ニ於ケル研究指導及ビ會ノ發展ヲ計ル。
一以 上一

東亞天文協會發行 新撰天文エハガキ 一組8枚 コロタイプ版 30錢  3錢 (1941年)
プロマイド版 150錢  3錢

1. 木星面：昭和12年、會員渡邊恒夫氏が花山の30種の赤道儀にて觀察したもの。
2. 皆既月蝕の寫眞：昭和14年五月3日本會員清水眞一氏が撮影したもの。
3. 火星のスケチ：大正15年の秋會員(故)中村要氏が觀察したもの。
4. ドナチ彗星：安政5年(1858年)の春、牧夫座に出現した大彗星。
5. 南十字座附近の寫眞：南洋に旅する人の憧れは此の“南十字”の星座である。
6. 太陽黑點の大寫し：昭和13年十一月9日、會員伊達英太郎氏が撮影したもの。
7. 冥王星：昭和5年(1930年)三月にロイエル天文臺に於いて行はれた発見。
8. ㌆クトリヤ天文臺の183種反射鏡：1918年建設された天文臺の大反射鏡。

東亞天文協會

—大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名—

會長	山本一清	(京都市平野宮北町; 滋賀縣草津町; 岡上田上村)
副會長	宮森作造	小櫛孝二郎
理事	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
專務理事	中村覺	經理部長 宇野良雄
教育部長	高山武夫	事業部長 大口廣作
報導部長	山本一清	理事(無任所) 美田爲三

本部所在地	田上天文臺	滋賀縣栗太郡上田上
事務局所在地	滋賀縣堅田局區内	
經營する天文台	倉敷天文台	岡山縣倉敷市
大阪支部所在地	大阪市電氣科學館	プラネタリウム (大阪市四ツ橋)
臺灣支部	臺北市公會堂内	
青島觀測所	廣島縣沼隈郡瀬戸村	

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小櫛孝二郎, 幹事 宇野良雄)
2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 倉敷天文臺 本田 實)
5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 本田 實)
6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
7. 機械課 (課長 京都市東三本木信樂 木邊成麿)
8. 寫真課 (課長 大津市鹿野町 堀井政三)
9. 遊星面課 (課長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎, 幹事 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條, 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事ガ出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文ブレンテ, 東亞天文協會急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

御申込みは 滋賀縣堅田局區内 東亞天文協會 (電報堅田郵便局)

(送金は安全, 確實な 振替口座 大阪56765番へ)

天界 第247號 昭和16年11月28日印刷 昭和16年12月1日發行 (定價金40錢) 送料金5厘

編輯兼發行	滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513	東亞天文協會 (振替大阪56765) (代表者山本一清) { 日本出版文化協會第2種會員(第220038番)
發行所	同 上	
印刷所	京都市上京區上樞木町千本東入	眞美印刷所〔電西陣3702〕
印刷者	同 上	橋本岩太郎
配給元	東京市神田區淡路町二丁目九番地	日本出版配給株式會社

